

ISHIDA まちづくり ニュース

第38号(平成19年8月) (株)石田技術コンサルタンツ

「都市・地域レポート 2007」について ～「都市・地域レポート 2007」にみるまちづくりの方向性考察～

平成19年7月31日に国土交通省都市・地域整備局企画課から「都市・地域レポート 2007」は公表されました。

平成17年度からスタートした同レポートですが、今回は「地方」に着目し、特に都市圏外の地域及び条件不利地域について、今後の取組み展開が紹介されています。

条件の厳しい「地方」の取組みレポートを確認することにより、各都市で都市施策・地域施策を検討する上でのヒントを見つけたいと思います。

都市・地域レポート 2007 の概要

1. 「地方」の現状

(1) 「都市圏」外の地域の状況→都市圏に先んじて、少子高齢問題が顕在化。

- ・ 国土の49%を占める「都市圏外(全国85の都市圏の外側の地域)」の地域は、人口の約1割が住む、地方中小都市や農産漁村などの多様な地域。
- ・ 都市圏に先んじて生産年齢人口が減少し、後期高齢者が増加。(100歳以上の人口の15%が住む)

(2) 離島、半島等の、条件不利地域の状況

- ・ 自然条件、地理条件等により指定された条件不利地域の住民は、格差感や、働く機会、医療について状況の悪化を感じている。

これらの地域では、従来、地域経済を支えてきた第一次産業が低迷するとともに、グローバル化の進展と工場の海外移転等、公共事業の減少により、第二次産業の雇用も減少している。

働く機会の創出が共通の課題であり、厳しい状況の中でも、企業誘致のほか、農業とその第六次産業化等、内発的な力、地域の総合的な力により多様な雇用の創出を目指す取り組みも見られる。

他方、努力する地域とその他の地域の差が広がることも懸念され、自発的な取組みを促す環境づくりや具体的目標となる地域づくりのビジネスモデルが求められている。

■用語解説

- 都市圏…人口10万人以上の都市とその通勤圏、生活圏を形成する地域。基本的には昼夜間比率が1.0を超えている人口10万人以上の「核都市」とその通勤圏・生活圏に含まれる地域で一つの都市圏を形成。例えば、愛知県では、名古屋市、小牧市、豊田市、刈谷市などを核都市とした都市圏を形成している、
- 第六次産業…農林漁業生産と加工、流通および販売・サービスまで一体的に捉えた産業形態の考え方。例えば農産品直売所なども該当する。岐阜県郡上市の「名宝トマトケチャップ」などが成功例。

都市圏外(「地方」)の地域の多様性と可能性 ～取組み事例～

1. 条件不利地域等からの挑戦

(1) 条件不利性を越える取組み

- ① 漁業と遠隔立地を克服する取組み
- ② 雪地域のニーズに応える技術と地域の取組み
- ③ 地域において高齢者が働き続けるための取組み
 - ・ 条件不利地域においては、労働力人口の高齢化が全国に先駆けて進んでいる中で、働く意欲のある高齢者が働き続けられるように、手のかからないキクイモ栽培に取り組む。(長野県泰阜村やすおかむら)

(2) 自然・地理条件を活かす取組み

- ① わが国の重要資源として注目されているクロマグロの養殖(奄美大島、和歌山県串本町)
- ② 海洋深層水の多角的利用と半島地域等の産業振興(三重県尾鷲市、高知県室戸市)
- ③ 再生可能エネルギーの活用による地域活性化(北海道沼田町)
- ④ 危機管理をテーマとした交流人口増加の取組み(東京都三宅村)

2. 近代都市と例岸が共存する日本の地域としての取組み

① 現代アートによる地域振興

- ・ 里山や離島を舞台に、現代アートを活かして新しい景観を創造し、従来の観光客の客層だけでなく、若者など交流人口の多様化を実現し、住民の理解と協力を勝ち得て、地域の新しいアイデンティティを見出す。
(「祭りとアートに出会う島」愛知県一色町佐久島)など

② 地方の音楽祭・演劇祭と交流人口の多様化

- ・ 交通アクセス等が好条件とはいえない地域において、小規模ながら音楽祭や演劇祭を継続開催し、交流人口を拡大し、海外にも積極的に発信する。
(「長崎おぢか国際音楽祭」長崎県小値賀町)など

④ 地域の歴史・文化遺産と地域づくり

- ・ 自然の中に点在する歴史遺産を核に、観光・交流人口の拡大を図る中で、利用者の視点からわかりやすい情報発信や、地元のガイドを充実させ、地域資源の付加価値を高める。
(石見銀山と太田市の取組み、熊野古道と東紀州観光まちづくり公社)

3. 都市と自然が織りなす日本の地域としての取組み

① エコツーリズムの可能性

- ・ 交通アクセスの点から厳しい状況におかれた中で、エコツーリズムに取組み、専門ガイド等、地域の雇用創出につながることが期待される。
(小笠原諸島、屋久島での取組み)

② 健康志向の高まりと自然を活かした多様なセラピー

- ・ 高齢化と健康志向の高まりを背景に、単に自然が豊かであることに留まらず、地域の自然条件を活かした特色のあるセラピーにより、交流人口拡大を図る。(アイランドセラピー(上島町)、タラソセラピー(五所川原市、室戸市)、森林セラピー(飯山市))など

社会経済的に厳しい条件にある「地方」の取組みは、近い将来、都市部の取組みとしても求められる要素が多くあると考えられます。特に、現状の問題点(弱み)を逆手に取って、特徴のある「強み」として地域振興につなげる手法が大いに参考になります。

お問い合わせ・ご意見は、

㈱石田技術コンサルタンツ まちづくり担当

TEL ; 0568-73-1085

FAX ; 0568-73-1091

e-mail ; hasegawa_n@itcnet.co.jp

までお願いします。

当社は、

「頼れる！まちづくりのパートナー」としての

「コミュニティ・コンサルタント」

を目指しています。



株式
会社

石田技術コンサルタンツ